

講義科目名称： 老年高度実践看護学実習 I

授業コード： 6930700800

英文科目名称： Advanced Clinical Practice of Gerontological Nursing I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	4単位	選択 老人看護CNS必修
担当教員			
◎小長谷百絵、原等子、東條紀子			
添付ファイル			

授業種類	【開講】 前期	【授業時間】 180時間			
	【担当教員】				
	【氏名】 ◎小長谷百絵 原 等子 東條 紀子	【所属】 新潟県立看護大学 同上 同上	【研究室】 213 303 308	【メールアドレス】 konagaya@niigata-cn.ac.jp naohara@niigata-cn.ac.jp toujou@niigata-cn.ac.jp	
	【大学の科目区分】 専門分野				
	【DP1】 ○	【DP2】 ◎	【DP3】 ◎	【DP4】 ◎	【DP5】 ◎
			【DP6】 ◎		

到達目標	<p>1. 様々な加齢変化に加え、複数の慢性の疾患や障害により複雑な病態像を呈して入院治療を要する高齢者とその家族、また、自立の生活が困難で退院後も継続的に医療・介護が必要であるものの、様々な理由から自宅での介護が受けられないためにケア施設に移動したり、対応困難な状況で在宅に移行している高齢者とその家族などに対する、高度な看護実践を実施することができる。</p> <p>2. 高齢者とその家族を対象に、彼らのニーズと現状のギャップや状態改善をはかるために、老年看護に関連する諸理論を適用することができる。</p> <p>3. 個別性を重視した包括的なアセスメントに基づく看護を展開することができる。</p> <p>4. 実習指導者（老人看護 CNS、看護師長、看護部長など）による指導の下、組織的な看護活動、スタッフ教育、相談、調整、倫理調整、研究指導を実施することができる。</p>
------	---

授業概要	<p>高齢者の入院患者が多い医療施設で CNS に求められる高度看護実践、スタッフ教育、相談、調整、倫理的調整、教育、研究に関する事項を実習する。指導教員ならびに高齢者看護に経験豊富な老人看護 CNS、看護師長および施設の看護管理者の指導のもとに実習を行う。</p> <p>なお、高度看護実践のケースレポート（看護過程 1 例と退院計画 1 例）また、倫理、調整、相談、スタッフ教育の実践活動レポートをCNS受験時の申請書の一部である実績報告書の様式に準じて各1部作成する。</p>
------	---

授業計画	1	<p>授業内容</p> <p>授業形態：実習</p> <p>学修課題：高度看護実践</p> <p>学修内容：慢性の疾患・障害をもち、ニーズや家族背景等が複雑、解決困難な状況をもつ入院高齢患者の事例を担当し、看護実践を行う。身体や精神、社会面から包括的アセスメントを行い看護ケアが必要な状態の診断のもと、家族を始めとするインフォーマル・フォーマルなサポートシステム、ケアに関わる多職種とのチームアプローチ、連携・協働を考慮した看護過程を展開する。ケアプランを立案し、問題解決のための実践・評価を行う。また、退院予定の高齢患者の退院支援、退院調整にかかわる実習を行う。</p> <p>備考：小長谷、原、東條</p>
	2	<p>授業内容</p> <p>授業形態：実習</p> <p>学修課題：倫理</p> <p>学修内容：倫理的判断に必要な看護場面において、関係者間の倫理的調整と意思決定の支援ができるよう実習する。</p> <p>備考：小長谷、原、東條</p>
	3	<p>授業内容</p> <p>授業形態：実習</p> <p>学修課題：調整</p> <p>学修内容：対象者に必要な医療やケアが効果的に提供されるために、高齢者ケアに携わる家族、保健・医療・福祉職間の調整の在り方について実習する。</p> <p>備考：小長谷、原、東條</p>
	4	<p>授業内容</p> <p>授業形態：実習</p> <p>学修課題：相談対応</p> <p>学修内容：看護職を含むケア提供者（コンサルティ）からの相談を受け、コンサルテーションの知識・技術を活用して相談対応する実践から評価までの実習を行う。</p> <p>備考：小長谷、原、東條</p>
	5	<p>授業内容</p> <p>授業形態：実習</p> <p>学修課題：スタッフ教育</p>

	<p>学修内容：実習施設の役割・機能を考慮し、ケアチームにおける看護専門職として、スタッフのケア実践に関する助言を行う。また、ケアの質向上につながるスタッフ教育・研修計画を企画・実施・評価の実習を行う。</p> <p>備考：小長谷、原、東條</p>
事前・事後学習	<p>事前学修：看護実践を振り返り各自の看護実践上の課題や関心を明確にする</p> <p>事後学修：自らの実習内容に応じて新たな文献を精読する</p>
評価方法、評価基準	<p>到達目標1～4に対して、実習事前準備、実習の出席状況、実習目標達成度の自己評価、実習指導者と指導教員による評価、実習レポートの評価を総合して行う。</p> <p>実習事前準備：20%、実習参加状況：30%、実習ならびに課題レポート：50%により評価する。</p>
テキスト	最新の論文や文献を使用するため現時点では指定せず授業内で案内する
参考図書・資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・既修の科目における参考文献や資料 ・実習中に随時紹介する。
受講、課題、資料配布等のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・実習要項を事前に配布し、説明する。実習の目的・目標を十分理解すること、また、実習施設の場所・理念や方針・組織・看護提供体制などについては、ホームページなどを活用して情報を入手し理解しておくこと。 ・実習の目的・目標達成のための具体的な実習計画書（課題、受持つ対象像、日程と具体的活動など）を事前に作成し、教員・臨地指導者と調整すること。
教員からのメッセージ	<p>・CNS に求められる 6 つの役割について十分復習して理解を深めておくとともに、CNS を志向する学生としての基本的なマナーを守り、看護職のモデル的役割を発揮してほしいと思います。また、実習Ⅰの目的・目標を十分理解し、その達成に向けて臨地指導者とより良い関係のもと、調整しつつ効果的な実習を展開することを期待しています。</p>
オフィスアワー	随時（メール調整）